

令和5年度全国学力・学習状況調査の結果をお知らせします。

児童、生徒への指導の充実や、学習状況の改善などに役立てるため、全国の小学校6年生と中学校3年生を対象に、「全国学力・学習状況調査」が今年4月に行われました。

調査は、日野学園前期課程6年生の児童が国語と算数の2教科、日野学園後期課程9年生の生徒が国語・数学・英語の3教科、また、児童生徒質問紙調査（生活習慣、学習意欲・環境などの調査）が行われました。

前期課程では

▼国語、算数とも、全国平均正答率（以下、全国値）を5ポイント以上上回る結果でした。

学習指導要領の領域別平均正答率からみると、国語については、全ての領域で全国値を上回る結果でした。「書くこと（書く能力）」については、全国値を上回ったものの、平均正答率が3割台（全国的に課題があり）で、課題が伺える部分も見受けられます。また、情報の扱い方に関する事項の、情報と情報と

の関係付けの仕方や、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解して解答する問題については、児童の思考が問題のイラストに左右されていると考えられ、文章を正確に読み取る力をつける必要があります。

算数については、全体では全国値を上回ることができましたが、変化と関係の領域で全国値を下回りました。伴って変わる二つの数量を見いだして、それらの関係に着目し、表や式を用いて変化や対応の特徴を考察する力をつけるために、

解き方を説明する場面で必要な語句や言葉が使用されているかどうか、記述を確認しながら全員で吟味する学習の仕方を取り入れることが必要です。

また、図形の領域は全国的に正答率が低く、5割台でした。特に、折り曲げたテープを切り取って開いて正三角形を作ることがイメージできていない児童が多く、具体的な操作を通して図形のイメージをつかんだり、記述されている数値も含めて情報を処理する力を伸ばしたりしていく必要があります。



▼学習に関する興味・関心は良好な結果でしたが、規範意識・自己有用感については課題があります。

質問紙の回答について、7割の質問で肯定的な回答が全国値を上回っていました。

教科への関心や必要性、授業に対する理解度などについても、例年通り高い値でした。昨年度の調査で課題としてあげられていた、「記述式の問題への取り組み方」については、「最後まで解答を書こうと努力した」という回答が全国値より高く、国語では9割を上回る結果でした。回答時間が不足していても、最後まで問題に取り組みようとする様子が伺えました。

後期課程では

▼国語、数学では全国値を上回り、英語ではやや下回る結果でした。

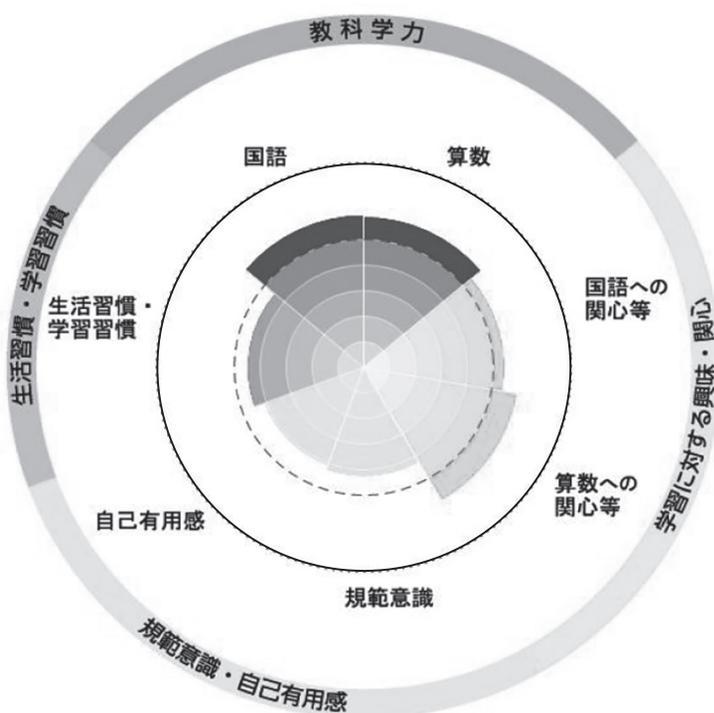
国語については、全国値を上回りました。

学習指導要領の領域別平均正答率からみると、「言葉の特徴や使い方に関する事項」の領域のみ、全国値には届きませんでした。他領域に比べ全国値を下回り、課題が伺えました。問題形式別では、特に記述式の問題に対する正答率が大きく下回る結果でした。一方で、特に「話すこと・聞くこと」「書くこと」の領域においては、全国値を大きく上回り、学習の成果が上がっていると感じられました。

数学については、全国値をやや上回りました。学習指導要領の領域別平

調査結果チャート (前期課程)

<児童生徒>児童質問紙 (全国基準)



均正答率からみると、「データの活用」領域のみが全国値を下回り、それ以外の領域については全国値を上回る結果でした。問題形式別では、選択式の問題に対する正答率が全国値をやや下回りましたが、記述式の問題形式別正答率は全国値を上回る結果でした。

英語については、全国値をやや下回りました。

学習指導要領の領域別平均正答率からみると、「読

むこと」「書くこと」は下回りましたが、「聞くこと」は上回る結果でした。「学校生活の中から紹介したいものを1つ取り上げ、それを説明するまとまりのある文章を書く」ことについて正答率が低く、与えられたテーマについて考えを整理し、文と文のつながりなどに注意してまとまりのある文章を書くことに課題があります。

▼学習に対する興味・関心・

意欲は上昇、規範意識・自己有用感に課題が見られます。

質問紙の回答について、5割以上の質問で肯定的な回答が全国値を上回っていました。

特に、「記述式の問題への取り組み方」について、昨年度課題として挙げられていた「書く問題で解答しなかったり、書くことを途中であきらめたりしたものがあつた」という回答は、ほとんどの生徒が「全ての書

く問題で最後まで解答を書こうと努力した」と回答しており、最後まで主体的に取り組んだことが成果につながつたと考えられます。

教科に対する興味関心や将来への有用感などの項目については上昇傾向にあるものの、規範意識や自己有用感については昨年に引き続き課題が見られます。また、昨年度高かったPCやタブレットなどのICTの効果的な利活用に関わる項

目に対しては、ほぼ全国値と同じか下回る結果でした。

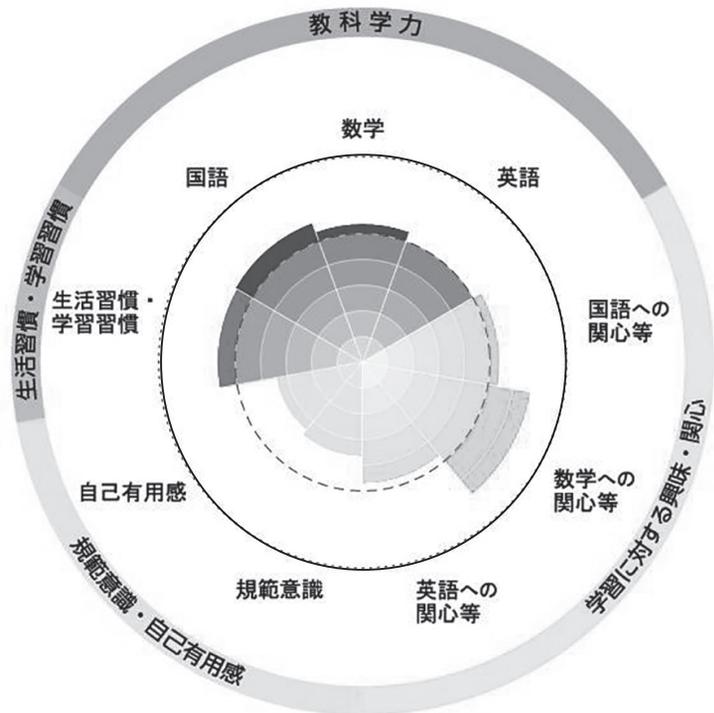
成果のみられる部分

□前期課程では、国語、算数ともに学習への興味関心について肯定的な回答が非常に高く、さらに教科学力も、全国値を大きく上回っています。児童の学習に対する意欲が理解にもつながっていると考えられます。

□後期課程では、国語、数学ともに全国値を上回りま

調査結果チャート (後期課程)

<児童生徒>生徒質問紙 (全国基準)



▼各教科は正答率、ほかの項目は質問紙調査での肯定的な意見を、全国平均と比較して表しています。

▼中央の-----線は全国平均です。-----線より外側に出ている項目は全国平均以上、-----線より内側は全国平均未満を表しています。外に広がっている項目ほど、正答率が高い、肯定的な意見が多い結果を表しています。